

第 33 回（令和 3 年度）学術研究助成等公募要項

I. 学術研究の助成

1. 目的

この助成は、大学と産業界の連携を図りつつ、岡山県内における理工学に関する学術ならびに先端技術の向上を目指した研究を助成し、その振興を図ることにより、岡山県における科学技術社会の発展に寄与することを目的としています。

2. 研究助成の対象

理工学分野の基礎及び応用研究であって、研究者が 1 人で行うもの、又は 2 人以上の研究者もしくは研究者と企業が同一の研究課題について共同で行うもので、本年度内に一定の成果が期待されるもの。

3. 研究助成種目

研究の目的・性格に応じて、次の研究種目を設けています。

- (1) 萌芽研究 研究者自身が、将来の中心課題として取り組む、優れた着想と発展性を備えた、学術的あるいは先端技術に関する萌芽的研究
- (2) 一般研究 特色ある成果を挙げている研究者が、新しい発想によりさらに学会・社会で認知される水準を目指して取り組む、学術的あるいは先端技術に関する研究
- (3) 産業先行研究 この研究助成は「岡山県産業振興財団科学技術賞」と称し、岡山県技術振興基金事業「若手研究者支援助成金事業」により設けたもので、申請時 40 歳以下の研究者自身が行う産業界のニーズに応える新事業創出及び新事業展開に向けた研究
- (4) 特別研究 この研究助成は「内山勇三科学技術賞」と称し、平成元年に内山工業株式会社元会長故内山勇三氏の寄附金で設けたもので、特色ある先導的成果を挙げている研究者が、それを特許取得または実用化が展望できる内容に発展させることを目指した、先端技術に関する研究

4. 研究助成件数と助成額

- (1) 萌芽研究 2～4 件程度（1 件 30～50 万円程度）
- (2) 一般研究 3～5 件程度（1 件 70～100 万円程度）

- | | | | |
|------------|---|---|--------------|
| (3) 産業先行研究 | 5 | 件 | (1件 40万円程度) |
| (4) 特別研究 | 2 | 件 | (総額 400万円まで) |

5. 研究助成の申請

(1) 応募資格

理工学分野の基礎及び応用研究に従事している研究者又は研究グループで岡山県下の大学、高専及び公的研究機関に所属する者

(2) 申請手続

申請者は研究の目的、性格、必要性等を十分に考慮のうえ、適切な種目で「研究助成申請書（様式1A）」を作成し、所属研究機関の代表者に提出し、その推薦を受けてください。研究機関の代表者は、申請書類を研究種目ごとに取りまとめ、下記7に提出してください。

(3) 申請書類

申請用紙は、当財団のホームページからダウンロードできます。

また、財団事務局までご請求くだされば、電子データの様式を差し上げます。

応募に当たって、以下のことに留意願います。

(1) 研究の目的、必要性、計画の概要の焦点を絞り、(2) 従来の研究あるいは手段・方法などに対する優位性が具体的（できれば定量的）にわかり、(3) 専門の周辺の研究者にも研究の概要が理解できるように記述してください。

なお、専門領域の研究者しか理解できないような専門用語を多用した内容のものや、どこまでを目標とするのかが明瞭でない申請書も見受けられます。また、特別研究ということで、年齢・経歴に関係なく、奮っての応募を期待しています。

6. 提出期限

令和3年4月9日（金）必着

7. 提出先・お問い合わせ先

〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目1番1号 岡山大学新技術研究センター内
公益財団法人 岡山工学振興会事務局（ご持参又はご郵送願います。）
Tel・Fax：(086) 255-8311、 E-mail：ofst@okayama-u.ac.jp
URL：http://ofst.or.jp/

8. 選考結果

(1) 選考委員会で選考し、理事会の議を経て決定します。申請者及び推薦者に対し、採否、助成金額、交付の期日と方法を通知いたします。

決定予定時期 令和3年7月中旬

(2) 採否決定経緯の問い合わせには応じかねます。

(3) 申請書類等は、原則として返却いたしません。

9. 研究の実施期間

研究実施期間は、原則として交付決定日から令和4年3月31日までとします。ただし、産業先行研究については令和4年2月28日までとします。

10. 助成金の使途

申請課題以外の目的に使用することはできません。

研究代表者が病気等で長期にわたって研究ができなくなる場合、又は研究者が他の研究機関等へ異動される場合は、財団にご連絡ください。

1 1. 研究終了後の手続

研究者は、助成期間に応じ研究実績報告書を研究終了後、提出していただきます。その詳細は採択時にお知らせいたします。

1 2. 研究成果の公表

(1) 研究成果を公表する場合は、下記の財団名を参考にして、当財団から助成を受けた研究である旨を明記してください。

和文例 : 公益財団法人 岡山工学振興会

英文例 : The Okayama Foundation for Science and Technology

(2) 助成を受けた研究者は、4~5 年後に当会から研究成果の発表講演を要請する場合があります。その場合は、特別の事情がない限り、必ず応じていただきます。発表講演では、岡山県内の理工学の発展又は先端技術の向上と研究成果の結びつきについて、具体的に述べていただきます。

(研究成果発表講演会については、後記の当振興会の研究成果の普及及び情報の収集・提供等の事業をご参照ください。)

II. 国際研究集会等派遣の助成

令和3年度の募集はございません。

III. 学術研究集会，学術講演会への助成

令和3年度の募集はございません。

IV. 産学官連携研究会への助成

1. 目的

岡山県内の大学と産業界の連携を図りつつ、理工学に関する学術ならびに先端技術に関する研究を助成し、その振興を図ることにより、岡山県における科学技術社会の発展に寄与することを目的とします。

2. 助成対象の研究会等

理工学分野の基礎及び応用研究に従事している研究者又は研究グループで岡山県下の大学、高専、公的研究機関、行政及び企業に所属する者で構成された研究会

3. 事業の範囲

研究会等が行う事業の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 理工学に関する研究成果の普及に関するもの
- (2) 先端技術研究に関する情報の提供に関するもの
- (3) 理工学に関する産学交流事業に関するもの
- (4) 理工学教育の振興に関するもの
- (5) その他財団の目的を達成するために必要なもの

4. 申請手続

研究会等を設置する場合は、「研究会等設置申請書(様式5A)」及び「研究会等助成申請書(様式6A)」を財団事務局に提出してください。

申請用紙は、当財団のホームページからダウンロードできます。

また、財団事務局までご請求くだされば、電子データの様式を差し上げます。

5. 提出期限

令和3年4月末日

6. 提出先・お問い合わせ先

〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目1番1号 岡山大学新技術研究センター内
公益財団法人 岡山工学振興会事務局（ご持参又はご郵送願います。）
Tel・Fax：(086)255-8311、E-mail：ofst@okayama-u.ac.jp
URL：http://ofst.or.jp/

7. 選考結果

選考委員会で選考し、申請者に採否、助成金額及び交付期日と方法を通知いたします。

8. 研究会等終了後の手続

研究会等の代表者は、毎会計年度終了後速やかに当該年度の研究会等事業収支報告書を提出していただきます。

令和3年度 学術交流推進事業公募要項

1. 目的

この助成は、岡山県内における理工学に関する学術ならびに先端技術の向上を目指した優れた学術研究及び学術集会開催等を助成し、その振興を図ることにより、岡山県における科学技術の発展に寄与することを目的としている。

2. 研究助成等の対象

理工系の基礎及び応用研究又は、これらに関わる学術集会等。

3. 研究助成等の種目

- | | |
|----------------|---|
| (1) 学術研究推進助成 | 特色ある成果を挙げている研究者等がさらに高水準を目指して取り組む、学術的あるいは先端技術に関する研究。 |
| (2) 学術集会開催推進助成 | 岡山県内の理工学の発展と先端技術の向上に寄与する学術集会、学術講演会。 |

4. 研究助成等の費用

学術研究推進助成等申請書の研究内容等に賛同する企業等の寄附金をもって充てる。

5. 研究助成件数及び金額

概ね20件程度（総額1,000万円程度）

6. 研究助成の申請

- | | |
|----------|--|
| (1) 応募資格 | 理工学分野の基礎及び応用研究に従事している研究者又は研究グループで岡山県下の大学、高専等教育研究機関に所属する者。 |
| (2) 申請手続 | 申請者は、研究の目的、性格、必要性等を十分に考慮し、学術研究推進助成申請書（様式1-1）を、又は学術集会開催推進助成申請書（様式1-2）を作成し、下記8に郵送又はメールで提出してください。 |
| (3) 申請書類 | 申請用紙は、当財団のホームページからダウンロードできます。
また、財団事務局に請求くだされば、電子データの様式を差し上げます。 |
| (4) 受付開始 | 令和3年4月1日から |

7. 提出期限

毎月月末

8. 提出先・お問合せ先

〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目1-1 公益財団法人 岡山工学振興会事務局

TEL・FAX : (086)255-8311、E-mail : ofst@okayama-u.ac.jp

URL : <http://ofst.or.jp/>

9. 選考結果

選考委員会で選考（審査）し、申請者及び寄附者に採否、助成金額、交付期日等を通知する。

10. 研究・集会終了後の手続

助成期間終了後1年以内に学術研究推進助成実績報告書（研究継続中の場合は中間報告書）（様式5）又は学術集会終了報告書（様式6）を提出して下さい。

11. 研究成果等の公表

財団HPにおいて公表する。

賛助会員様のご紹介

（公財）岡山工学振興会は、理工学に関する研究を振興するとともに、先端技術の向上を目指した大学と産業界等との連携をはかり、もって学術および技術開発の進展に寄与することを目的としています。この趣旨に賛同し、ご支援賜っています法人会員様をご紹介します。今月号は、株式会社システムズナカシマ様、新興工業株式会社様にご執筆を賜りました。

株式会社 システムズナカシマ



（株）システムズナカシマは、岡山県に本社を置く ICT 企業です。

【起業】

システムズナカシマは、船舶用推進器のトップメーカーである、ナカシマプロペラ株式会社のシステム事業部門が分離し、1985年に独立法人として設立されました。長年にわたって蓄積されてきたコンピュータの利用技術とノウハウを活かし、設計部門向け CAD システムの開発からスタートしました。現在では、事務系システムの開発から導入・運用コンサルティングまでを行う、総合システムインテグレータとして、着実な歩みを続けています。

21世紀を迎え、我々を取り巻く環境は大きく変革しようとしています。このような環境の中で、システムズナカシマではいち早くグローバル化に目を向け、海外の優秀な開発会社と提携して、ソフトウェア製品やソリューションの輸入も行い、大きな実績を出しています。



設備ソリューション



自社開発の2次元CADシステム「ANDES」を水道や電気の設備等の業種向けに専用化して中核に据えています。これに加え施工工事、図面に関する商品を設備ソリューションとして開発、提供しています。

業務ソリューション



営業情報管理システム「NICE 営業物語」

営業担当者が毎日書いている営業日報を企業の戦略情報や顧客管理情報へ変える営業支援システム「NICE 営業物語」をはじめ、人と人のつながりを見える化しビジネスを加速するツール「人脈 Master」、そしてコロナ禍、簡単に！いつでも！Web 展示会を開催できる WEB EXPO Master を提供開始しました。

受託開発事業



製造業、建設業、小売業、メンテナンス業、製造業、学校、病院など多様な業種においてお客様のビジネス目標達成のためのシステム開発を行っています。

ナカシマ未来研究所



新たなテクノロジーへの取り組みとして、AI・IoT・ドローン・ブロックチェーンなど新たなテクノロジーをビジネスに活かすための研究開発を行う研究所『Nafla (ナカシマ未来研究所)』を設けております。すでにAI・IoT・ドローンなどのソリューション開発生かされています。また、世界各国のITベンダーと協業し海外の先端技術・製品の国内展開を行っています。

システムズナカシマは、「お客様の要望に応える世界でただひとつの最適なプロペラを作ってきたことに由来する“*We Go Beyond*”というナカシマグループのブランドスローガン」の下、お客様の多様な

要望に的確にこたえ、新たな最適解を追い求め、お客様とともにその向こう側（Beyond）にある無限の可能性をカタチにしてゆきます。

連絡先：〒700-0982 岡山市北区中島田町 2 丁目 3-19 株式会社 システムズナカシマ 岡山支店
086-234-8111 <http://www.systems.nakashima.co.jp/>

新興工業株式会社

所在地 岡山県総社市富原 129-46 電話 0866-93-0871(代)

URL, <http://www.kogyo.shinko-grp.co.jp>

設立 1966 年 11 月 17 日

代表取締役 笹沼 靖憲

資本金 80 百万円

従業員数 426 名



【新興工業のプロフィール】1948 年戦後まもなく、故水松靖

慈氏が倉敷市水島にて創業を開始した「新興工作所」が新興グループの歴史の始まりです。その後現三菱自動車工業(株)水島製作所向けの事業拡大に伴い 1966 年に新興工業(株)として分社化し、幾多の好不況の波や様々な経営環境変化を乗り越え現在に至っています。今は取引先も多様化し、三菱自動車工業、ダイハツ、アイシングループ、住友電工焼結合金、ジェイテクト、日立アステモ（旧ショーワ）等多数のお客様と取引をさせて頂いております。事業は、自動車の駆動系部品の切削加工及びプロペラシャフトの生産を行っています。海外の事業展開も進めており、タイに合弁会社 2 社、100%出資の子会社を中国に 1 社、インドネシアに 1 社を保有し海外でも活躍できる人財の教育を進めながら、グローバル競争力を高めています。

【我社の特徴】当社では、30 年以上前から、独自の自動生産ラインによるオペレーションに拘りをもって歩んできました。自社設計であるからこそ、日常管理はもちろんの事、有事の場合においても自社診断、メンテナンス対応が可能であり、BCPが重んじられる現代においても、お客様への部品の安定供給を図ることが可能です。国内 3 工場の主要設備としてはNC旋盤 511 台、マシニングセンター434 台、ロボット 359 台他を保有しております。

具体的には、主に下記の 3 つの強みがあります。

1. 加工設備の強み

メーカー標準仕様機に自社設計の専用治具を搭載する事で、生産ラインの投資および製品単価のコストダウンを実現できます。

2. 自動生産ラインの強み

主に汎用性の高い標準機を用いた自社設計の生産ラインを構築している為、設備投資時のインシヤルコストを抑えることができ、製品単価の低減に繋がっています。更には、多品種及び生産VOLの変動に柔軟に対応することが可能です。

3. 工具設計の強み

製品加工に使用する「特殊工具」の社内設計・制作・再研磨を始めた事で、工具費の抑制と生産準備のリードタイムの短縮化が図れます。

【地域貢献と自動車業界発展への貢献】 地域への貢献活動として、ファジアーノ岡山の支援活動、地元小学校に対し工場見学を実施、コロナ禍の現在は中止しておりますが、毎年4月に本社敷地内で地元住民の方をお招きし、桜まつりを開催し、地域の皆様と交流を図っております。また、若者のクルマ離れがささやかれる中、自動車業界の発展に貢献すべく、近年は、岡山国際サーキット、SUPER GT等レーシングチームに対してスポンサーとしての支援活動にも取り組み、モータースポーツの支援を通じて車好きなユーザー裾野の拡大に取り組んでおります。

《(公財)岡山工学振興会賛助会員の募集について》

(公財)岡山工学振興会は、平成元年2月に設立された特定公益増進法人で、平成23年11月公益財団法人に移行した法人です。本財団は、理工学に関する研究を振興するとともに、先端技術の向上を目指した大学と産業界等との連携を図り、もって学術および技術開発の進展に寄与することを目的としています。本会の趣旨にご賛同のうえ、是非とも賛助会員をお引き受け頂き、ご支援賜りたくお願い申し上げます。

平成27年度から賛助会費については、定款の変更に伴い、寄附金控除の対象となる旨の税務署の確認をいただいております。

賛助会費(年額) (1)法人会員 1口50,000円 1口以上 (2)個人会員 1口5,000円 1口以上
電話/Fax : (086)255-8311 e-mail : ofst@cc.okayama-u.ac.jp

※詳しくは当財団ホームページ <http://ofst.or.jp/> をご覧ください。

賛助会員 (法人)株式会社英田エンジニアリング、株式会社OKI ソフトウェア、倉敷化工株式会社、株式会社システムズナカシマ、新興工業株式会社、ナカシマプロペラ株式会社、北興化学工業株式会社、みのる産業株式会社、安田工業株式会社 (個人)伊藤敏幸、宇野義幸、岡本康寛、古賀隆治、酒井貴志、眞田明、芝本詢三、清水一郎、高橋智、辻善夫、本田和男、村上宏、吉田彰、和田力

財団コラム

業務執行理事 則次俊郎

2020年6月に本財団の業務執行理事に就任させていただきました。広報・情報収集担当として、財団の年報、財団ニュース、ホームページ、ホット交流会などに携わっています。年報などをより身近なものとするため、賛助会員様などからの寄稿をいただくことなどを検討しています。また、現在、ホット交流会はコロナ禍により延期になっています。

さて、本財団が所掌する工学分野、特にものづくりに関わる研究開発では産学連携や現場での体験が重要です。私は、現在、勤務先の美作大学において「介護ロボット研究会」を設置し、介護ロボットの实用化に向けた議論を進めています。研究会の性格上介護現場との直接の連携が求められますが、コロナ禍において儘ならない状況です。

このような状況においてオンラインによる会議を何回か開催しました。オンライン会議には、他県などの会員が手軽に参加できるなどの利点があります。現在、学会の講演会などのほとんどがオンライン開催され、遠方の開催地まで出かけなくても自宅や職場から手軽に参加できます。オンライン会議は知識の収集や情報交換のために便利な手法であり、アフターコロナの時代においても有用なツールになると思います。

しかし、オンラインでは何かが満たされない気がします。例えば、現場を見ることが不可欠な介護ロボットの議論はオンラインだけではいつまで経っても完結しません。また、冒頭で述べたホット交流会のオンライン開催も一つの方法ですが、できればその名の通り対面によるホットな交流が望まれます。種々の活動が対面により自由に実施できる日が一日も早く訪れることを祈ります。